

観光社会資本の事例

テーマ	歴史を継承し生まれ変わる「横浜地方気象台」	
【施設の状況写真】		
		<p>関東大震災の震災復興建築であったことから簡素な作りではあるものの、アール・デコのデザインが施された玄関部分など、時代的な特徴を残す建物として、横浜市登録歴史的建造物となっています。</p>
<p>現庁舎は 1927 年(昭和2年)に神奈川県営繕管財課の設計により旧神奈川県測候所として完成。昭和 14 年の法改正で国に移管され、現在に至っています。</p>		
【施設の利用写真】		
		<p>庁舎内部の見学は事前申し込みにより可能です。気象観測の様子や、実際に稼働している地震計などの施設も見学できるほか、防災知識の普及活動も行っています。</p>
<p>敷地前面には、「ブラフ積み」と呼ばれる石積みがあり、外国人居留地の面影を残す山手の歴史的景観を形成しています。</p>		
【観光資源としての利用状況】		
<p>気象台が立地する横浜山手地区は、多くの観光客が訪れる横浜有数の観光地でもあり、歴史と文化を生かしたまちづくりによって緑豊かな環境が時間をかけて形成されてきました。</p> <p>その中であって横浜地方気象台は、アール・デコのデザインの外観やこの地域特有の「ブラフ積み」と呼ばれる石積みなどによって歴史的な景観に寄与しており、内部には気象観測に関する貴重な資料も保存されているため 2003 年(平成 15 年)には横浜市登録歴史的建造物として登録されました。</p> <p>国土交通省関東地方整備局では平成 16 年度より、歴史的価値を保存しつつ施設機能の高度化を図るための保存活用事業に取り組んでいます。</p>		

テーマ	歴史を継承し生まれ変わる横浜地方気象台
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 横浜地方気象台</p> <p>所在地 神奈川県横浜市中区山手町99番地</p> <p>事業名 官庁営繕事業</p> <p>事業主体 神奈川県・国</p> <p>事業期間 昭和2年(完成)、平成19年(保存活用整備予定)</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>旧神奈川県測候所が関東大震災で焼失した後、神奈川県営繕管財課(繁野繁造)の設計により、1927年(昭和2年)に神奈川県測候所として、この建物が完成しました。その後、昭和14年の法改正によって国に移管され、昭和32年に横浜地方気象台となりました。</p> <p>ポーチの柱や軒、そして扉に施された簡素な装飾など、アール・デコ調の幾何学的なデザインが施され、この建物が創建された当時の時代の雰囲気を与えているほか、内部に保存されている貴重な資料も文化的価値が高いため、横浜山手地区の歴史を継承する存在として高く評価されています。</p> <p>今後もこれらの歴史的文化的価値を保存し次世代へと継承しながら、神奈川県での気象業務を遂行する最新の気象観測・予報施設としての機能を与えるため、平成16年度から国土交通省関東地方整備局営繕部による企画、安藤忠雄建築研究所の設計により保存活用事業に取り組んでいます。整備に伴い、市民に公開するスペース(気象測器等展示コーナー)が設けられる予定です。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】</p> <p>横浜地方気象台 http://www.tokyo-jma.go.jp/home/yokohama/</p>	